

日本セラミックス協会 関東支部  
70 周年にあたって

関東支部長 高木 悟

関東支部創立 70 周年おめでとうございます。本誌をお借りして、日本セラミックス協会の皆様のご指導、ご協力への御礼と関東支部の皆様へお祝いを申し上げます。

本年、創立 70 周年を迎えました関東支部では、この機会に、これまでの当支部の活動の歴史をまとめ、記録し、支部員の皆様、特に若い方々に伝えることは重要であろうと考え、OB の方々による記念講演、セラミックス誌の記念投稿、そして関東支部ホームページ ([http://www.ceramic.or.jp/skanto/index\\_j.html](http://www.ceramic.or.jp/skanto/index_j.html)) への活動記録の掲載などを企画しました。最初の企画として、7 月 22 日に開催された関東支部研究発表会の中で、本支部の運営に多大なご協力を頂いておりますお二人の大先輩をお招きし、創立 70 周年記念講演会を開催いたしました。

この内容は、支部員だけでなく、日本セラミックス協会の皆様方にとりましても有意義であろうという思いから、本誌をお借りして紹介させて頂くことといたしました。また、講演会ではお話しただけなかった大先輩方の協会活動の思い出や私たち後輩への叱咤激励という内容で本誌への寄稿もお願いいたしました。

70 年、人間という「古希」。これは並大抵のものではなく、苦勞や経験を通して、多くの知識が詰まっております。閉塞感が深っている今こそ、「故きを温ねて新しきを知る」ではないでしょうか。例えば、中国の輸出制限に端を発した最近の希土類材料の入手不安、それらの代替材料探しが話題になっておりますが、希土類材料の有用性を発見した「先人たちの研究の足跡をたどる」ことで代替材料の再発見も可能ではないでしょうか。このようなことも思いながら、大先輩の足跡を垣間見、叱咤激励をしっかりと受け止めることで、今後の日本セラミックス協会の発展と我々の研究活動の糧にして行きましょう。

(たかき さとる/旭硝子(株))

